

クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

JIPPO専務理事 中村 尚司

仏教系の特定非営利活動法人JIPPO ～世間と宗門の架け橋をめざして～

JIPPOとは

京都の西本願寺を本山とする「浄土真宗本願寺派」では、国際貢献や社会活動を担うNGOを設立しようという議論が繰り返し行われてきました。曹洞宗を基盤にした「曹洞宗ボランティア会（現シャンティ）」の活動が、少なからぬ影響を及ぼしたともいえます。

さまざまな議論を経たうえ、JIPPOは2008年11月5日に京都府の認証を得て、NPO法人として公式に発足しました。宗門の機関紙『本願寺新報』をはじめ、宗門内の広報も意欲的に進められてきました。その限りで、JIPPOの活動に対する理解は深まったといえます。他方、社会活動や国際貢献の広範な分野で、NPOとNGOの違いがよく分からない、という宗門内の疑問も少なくありません。

日本は、伝統的な教団も新興宗教もお互いに交流が少なく、細分化が進んでいます。ましてや海外のダリット仏教やチベット仏教との交流はきわめて乏しいのが現状です。

JIPPOの役割は、社会活動や国際貢献を通じて、世間の暮らしと宗門との間にささやかな橋を架ける営みです。JIPPOに限らず、「NPO法人アユス」をはじめとする仏教系NGOにとっても最大の課題といえましょう。社会活動や国際貢献の方から仏教理解が進む道筋は、宗門側から見れば葬儀や法事に偏った門信徒との付き合いを多角化し多様化する試みでもあります。

主要な活動の柱

JIPPOは、主要な活動の分野として「平和構築」「貧困問題」「環境問題」および「災害救援・復興」の四つを柱に掲げ、事業を展開しています。いずれも大きな分野で、小さなNPO法人の手に余ります。

設立直後のJIPPOが、最初に取り組んだのは、有機農業で作られているスリランカの紅茶と東ティモールのコーヒーを扱うフェアトレードです。具体的な目に見える活動を通じて、海外の人びとの暮らしを知り、交流したい。その活動を通じて、とかく抽象的で思弁的になる仏法の意味を、現実の場から問い直したいと考えたからです。

EU諸国やアメリカでは、茶園労働者の生活条件の改善を図るフェアトレードにより消費者団体が市場価格で輸入した紅茶の売り上げ代金の10%を生産者に還元する動きが進んでいます。還元されたお金は個々の生産者に戻すのではなく、生産者の代表が、フェアトレード基金として積み立てます。

JIPPOが輸入しているグリーンフィールド農園のウバ紅茶の場合、輸入により自動的にその10%が農園内の労働組合を主体とする「フェアトレード委員会」に積み立てられます。これは労働者個人の病気の治療費や子どもの教育費には支出できません。すべての関係者が、公正、公平かつ平等に分かち合うように求められているからです。

オランダにある国際的な認証団体が、農園を定



スリランカのウバ紅茶はすっきりとした味・色・香りが特長

期的に審査します。このような国際的な認証により、JIPPOの販売するウバ紅茶は、フェアトレード商品であることが証明されます。しかしながら、私たちはこの意味でのフェアトレードに満足せず、その意義を深めようと努めています。フェアトレードの国際基準に合致しているかどうか、化学肥料や農薬が商品に残留していないか、というような有機農産物認証も大切です。けれどもそれ以上に、生産者と消費者が、海を越えて助け合う機会が必要であると考え、産地を訪問し生産者と交流するスタディツアーを続けています。

スタディツアーを通じた交流

スタディツアーの機会に、茶園労働者の子どもたちが通う幼稚園を訪問します。ささやかな募金による事業として、幼児用のトイレを建設したり、遊具を寄贈したりしました。また激しい内戦のあった地区では、少数民族の戦争孤児との交流にも努めました。子どもたちが将来、武器を持って対決するのではなく、異なった境遇の人びとと



スリランカのスタディツアーで茶畑の収穫作業を体験する学生たち

手を携えて、共に生きる日を夢見ています。

スリランカだけでなく、東ティモール、インド、タイ、ミャンマーなどでも、スタディツアーを企画し、東ティモールのコーヒー生産者支援、ミャンマーの寺子屋教育支援、洪水により被害を受けたタイの学校復旧支援を行いました。また、ハイチの地震支援、パキスタンの洪水支援などについては、募金を集めて現地のNPOを通じて、復興支援を行ってきました。パキスタンでは復興支援がきっかけになって、手押しポンプによる飲料水の供給、住民への衛生教育にも取り組みました。

最近では、大規模な被災者を出した2013年の台風30号（フィリピン名ヨランダ）の被災地に対して、学校建設支援を試みています。

国内での活動

JIPPOでは、発足以来国内での活動にも取り組んできました。平和構築に関する講演会、東ティモール独立に関する映画会、広島市の被爆ピアノ演奏会などです。京都市内で野宿者に食料や衣料を届け、生活相談に乗る仕事も続けています。



龍谷大学の学生と野宿者が暮らす橋の下を訪ねる

2011年3月の東日本大震災に関しても、支援活動に取り組み、運動場や体育館を使えなかった福島県の子どもたちを県外の野外活動に招いたり、教室にエアコンを設置したりしてきました。福島県物産の販売も行っています。南相馬市小高地区での菜の花による除染活動に参加しています。

我々は仏教系NPOの一員として、今後も世間と宗門との間に、大小の橋を架ける努力を続けていきます。